

(塩坂源一郎議員の質問)

1 保健・医療・福祉関係の諸課題について

『胆道閉鎖症を早期に発見するためのカラーカードの導入について質問』
胆道閉鎖症は、早期発見、早期治療の必要性が指摘されており、その早期発見のためのカラーカードを使ったマス・スクリーニングは、茨城県など8道県や札幌市などで導入され、本県でも横浜市等の政令指定都市では導入の検討が進められていると聞いております。

スクリーニングセンター設置などの課題もあるため、まずは早期発見のためのカラーカードを全県で導入すべきであります。

また、胆道閉鎖症は新生児1万人に1人の頻度で発症すると言われており、年間出生数が約8万人の本県では、年間1人も発症しない市町村が大部分になるため、県が一括してカードの作成することも視野に入れるべきであります。そこで、横浜市等の政令指定都市以外の県内市町村におけるカラーカードの導入に係る現在の検討状況と、導入について県から県内市町村には具体的にどのような働きかけを行ったのか伺いたいと思います。また、県内市町村分は、県が一括して作成・印刷することも検討すべきと考えますが、併せて松沢知事のご所見を伺います。

(松沢知事の答弁)

塩坂議員のご質問に順次お答えいたします。

はじめに、保健・医療・福祉関係の諸課題について何点かお尋ねをいただきました。胆道閉鎖症を早期に発見するためのカラーカードの導入についてであります。

胆道閉鎖症は、生後3ヶ月までの便の色に異常をきたすことが多いため、カラーカードにより、赤ちゃんの便の色を確認することで、早期発見が期待されるものと認識しています。

その一方で、カードの形式や色見本が標準化されていないなどの課題もございます。こうした中、国立成育医療研究センターでは、国の研究事業として新たなカラーカードを開発しました。

同センターでは、今年度から、この新たなカードの有用性を検証するため、パイロット事業を実施することとし、本県に対し、市町村を通じて、全ての妊産婦にカードを配布して欲しいとの協力要請がございました。

県としては、このカードを利用した普及啓発や、診断・治療の体制づくりの検証も期待できることから、パイロット事業へ協力してまいりたいと考えています。

そこで、今月、市町村に対し、母子健康手帳の配布や出生届の受理の際に、カードを配布していただくなど、パイロット事業への協力の働きかけを行っているところであります。

また、カードの作成・印刷を県が行うことにつきましては、カード印刷に国立成育医療研究センターの監修が必要なこともあり、カラーカードが本格導入された際には、県は希望する市町村とセンターの調整を行ってまいりたいと考えています。

私の質問で神奈川県でも胆道閉鎖症を早期に発見するためのカラーカードの導入が実現しました。今後、質問の全文と答弁の全文を私のホームページで公開して参ります。

<http://www.shiosaka.com>をご覧ください。

次の世代の子供達の笑顔の為に！！

神奈川県議会議員 塩坂源一郎

現場主義！